

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第381回

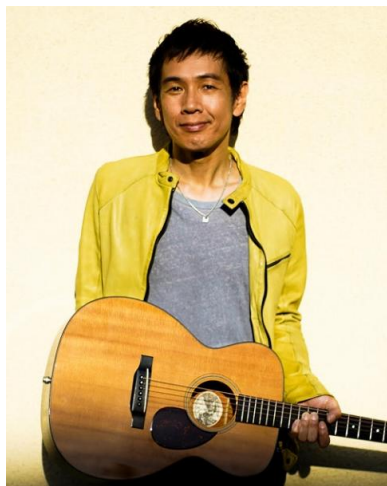
馬場俊英

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和6年3月8日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

少しずつお客さんが増えていくにつれて
“聴いてくれる人に届ける”ということの
大切さに気が付き始めて。

馬場 俊英は日本のシンガーソングライター。所属レーベルはドリーミュージック。身長 182cm。埼玉県寄居町出身。血液型は B 型。

Column

正智深谷高校がある深谷市の近くにある寄居町出身のシンガーソングライター、馬場俊英さんの言葉です。シンガーソングライターとしてスタートした当初は、もちろん自信もあったと思いますが“狭き門”と言われる世界ですから不安も同じように抱いていたと思います。でも、自分の夢や楽曲の魅力を伝えるためには『聴いてください！』と呼びかけていく以外に方法はないと“覚悟”を決めて一歩踏み出したのだと思います。最近の言い方をすれば、特に音楽にはすでに“推し”がいる人がほとんどで、なかなか自分の表現する音楽に気づいてもらえない時期もあったでしょう。それが徐々に馬場さんの作品が広がっていくにつれて『聴かせてください！』と言われるようになったのです。例えばアルバムをリリースできた時、例えばライブが始まる瞬間にステージ上からたくさんの方の姿を見た時に今回の言葉にある『気づき』があったのだと思います。そして、それは馬場さんにとって“プロ”になったと実感した忘れられない瞬間なのだろうと感じました。

先に述べたいいわゆる“プロ”の世界とは非常にシビアなものです。キラキラと輝いて見える部分の裏側には想像できないほどの苦労や葛藤もあります。きっと馬場さんにも思い悩む時期があったと思います。それでもこの世界に生きることを決めた自分の気持ちや“自分が生み出した作品に共感してくれる人がこんなに増えた！”という喜びが自身の心の支えになり、ここまで駆け上がって来たのだと思います。

私はファン目線として作品を“受け取りに行った”つもりでいました。楽曲の購入やライブに自分が行くからです。それが受け手だけでなく与える側も届けるという“同じ熱量”だったのだと感動しました。でも、プロだから人々に伝えることができるわけではありません。日常のちょっとしたシーンの中で自分の意見や気持ちを伝えることも同じで、そこに『どう伝えたいのか、どこまで伝えたいのか』という“熱量”があるかどうかだと思っています。どんなプロでも最初は素人ですし初心者でした。一般人でも“プロになればいいのに”と言われるようなパワーの持ち主もたくさんいます。みなさんもその一人です。『届ける気持ち』を大切に、自分の思いを表現できる力を身につけていきたいものですね。